

平和構築と国際援助を考える

——異文化の声に耳を澄まして

令和5年 2023. **9/28** 木 14:30 ~ 17:40 **参加無料**

会場

九州大学 伊都キャンパス
イースト1号館 EB-112教室
〒819-0395 福岡市西区元岡744番地

講演

DO NO HARM 原則と「翻訳」から考える
国際社会と平和構築
～ボスニア・ヘルツェゴヴィナを主な事例に
立教大学教授・NPO難民を助ける会会長 **長 有紀枝** 先生



DO NO HARM原則と「翻訳」から考える

国際社会と平和構築

～ボスニア・ヘルツェゴヴィナを主な事例に



趣旨

DO NO HARMとは米国のメアリー・アンダーソン(Mary B.Anderson) が1999年にその著 *Do No Harm : How Aid Can Support Peace- or War* (1999 Lynne Rienner Publishers) 大平剛訳『諸刃の援助 紛争地での援助の二面性』(2006明石ライブラリー) で示した援助の原則です。

発表以来、すでに四半世紀近くが経過していますが、同原則は現在でも、紛争地の人道援助に留まらず、開発支援、国内外の災害救援、平和構築にも通底する重要原則・国際規範として認識されています。

本セミナーでは、実務家として、紛争地や国内外の大規模災害の人道支援に関わり、研究者として、ボスニア・ヘルツェゴヴィナのスレブレニツァの虐殺事件の真相究明を通じて現地の平和構築を主要研究課題とする長 有紀枝先生に、同原則と、「翻訳」の視点から国際社会と平和構築についてお話しいただきます。

その後、長先生を囲んで、関心の近い学生の発表を交え、平和構築や国際援助について考えるワークショップを開催します。

講師

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授
認定NPO法人難民を助ける会(AAR Japan)会長

おさ ゆ き え
長 有紀枝先生



早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、同大学院政治学研究科修士課程修了、東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム博士課程修了(博士2007年)。1991~2003年まで AAR職員として旧ユーゴスラヴィア、アフガニスタン、チェチエンなどの緊急人道支援や地雷対策・廃絶活動などに携わる。2009年より立教大学教授。

主な著書に『入門 人間の安全保障—恐怖と欠乏からの自由を求めて』(中央公論新社2012年、増補版2021年)、『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』(東信堂2009年)。編著に『スレブレニツァ・ジェノサイド 25年目の教訓と課題』(東信堂2020年)。他関連論文多数。

ホームページ <https://osayukie.com/> にコラム等掲載。

プログラム

14:30 ~ 14:40

挨拶、講師紹介：施 光恒

せ てるひさ
(九州大学大学院比較社会文化研究院教授)

14:40 ~ 16:10

講演

長 有紀枝

「DO NO HARM 原則と「翻訳」から考える
国際社会と平和構築

～ボスニア・ヘルツェゴヴィナを主な事例に」

16:20 ~ 17:40

長 有紀枝 先生を囲んでのワークショップ

提題：永田 理乃

(九州大学大学院地球社会統合科学府博士課程)

「共感と平和構築

— 紛争後ボスニア・ヘルツェゴヴィナへの
国際社会の役割 —」

アクセス



下記の地図で、会場のイースト1号館は80番の建物です

